

糶谷

糶谷地区地域情報誌

令和6年5月1日号 第63号

発行：地域力推進糶谷地区委員会
 編集：糶谷地区地域情報誌編集委員会
 事務局：糶谷特別出張所 TEL3742-4451 FAX3742-4479



防災のまち糶谷

1 はじめに

令和6年1月に能登半島地震が起きました。石川県を中心とした被災地域では避難所生活を強いられるなどいまだに大変な状況が日々続いています。

関東でも大規模震災はいつ起きてもおかしくないことはご存じかと思えます。実際に起ったときに迷わないようどう行動したらいいのか考え、この機会に防災意識を高めていきましょう。

★避難場所と避難所の違い★

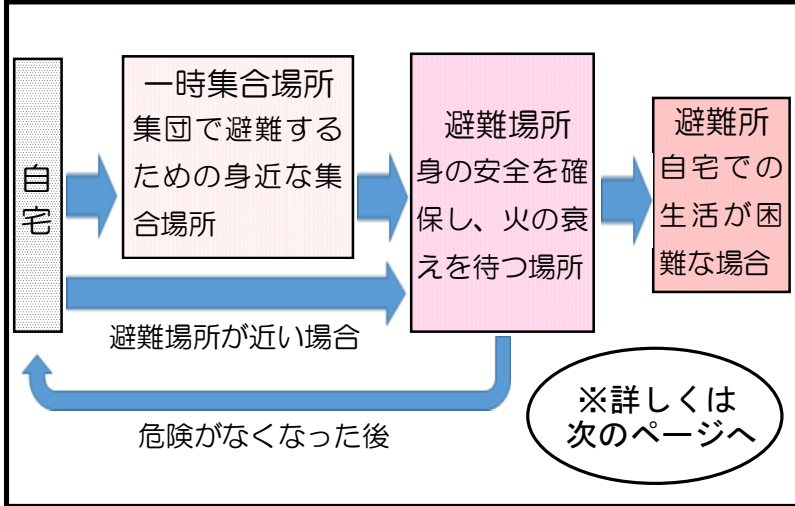
「避難場所」は大地震時に発生する延焼火災などの危険から身の安全を確保し、火災の勢いが弱まるのを待つ場所です。（例えば、森ヶ崎公園・萩中公園・東京国際空港天空橋周辺）火災の勢いが落ち着いた後は、自宅や避難所などへ避難することになります。

「避難所」は災害の危険があり避難した住民等が、災害の危険がなくなるまで必要期間滞在し、または災害によって自宅に戻れなくなった住民などが一時的に滞在することを想定した施設です。（例えば、糶谷小学校・東糶谷小学校・

北糶谷小学校・糶谷中学校・羽田中学校・コミュニティセンター羽田旭）

避難者もできる範囲で、受け付けや清掃、炊き出し、物資の配布など役割分担をして、お互いに助け合いながら避難所運営に参加することがとても大切です。

いざ災害が起きてしまったとき、どこに避難すればいいのか（状況によっては自宅にとどまる判断をした方がよいのか）今のうちに確認しておきましょう。



2 糶谷地域の防災

今回は大田区の防災、さらには糶谷地域での防災について確認していこうと思います。

阪神・淡路大震災や東日本大震災で

- ① 大規模災害では区などの行政の対応には限界があること
- ② 運営ルールが決まっていなかった避難所では混乱を極めたこと
- ③ リーダー不在の避難所は運営に時間がかかったこと

が明らかになりました。このことから分かることは「自分の命は自分で守る」「地域みんなで共に助け合う」ことが重要で、避難所の実用的な運営ルールとリーダーが主導する組織作りが必要だということなのです。

大田区では防災に強い「区民」と防災に強い「まち」づくりに向けて、小・中学校などの「避難所」を平成24年度より「学校防災活動拠点」と新たに位置づけています。

学校防災活動拠点では地域の方と協働で、学校を「逃げ込む場所」ではなく、「災害に立ち向かう場所」として運営することを目指しています。